

平成 23 年 6 月 30 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 23 年 6 月 30 日 (木曜日)

午後 4 時 00 分から午後 5 時 30 分まで

2 場 所 川崎小学校 会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委員 内藤 博子 委員 羽賀 友信

委員 中村 美和 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長 大滝 靖 子育て支援部長 矢沢 康子

教育総務課長 若月 和浩 教育施設課長補佐 山口 克彦

学務課長 武樋 正隆 学校教育課長 小野田 信子

子ども家庭課長 佐藤 正高 保育課長 佐野 勉

中央公民館長 鈴木 昇 中央図書館長 小倉 進

科学博物館長 山屋 茂人 学校教育課主幹兼管理指導主事 山田 修

学校教育課主幹兼管理指導主事 大矢 慎一

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐 栗林 洋子 教育総務課庶務係長 新沢 達史

教育総務課庶務係 大橋 悠子

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 28 号	補正予算の要求について

7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会 6 月定例会を開会する。

日程第 1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、内藤委員及び加藤委員を指名する。

日程第 2 議案第 28 号 補正予算の要求について

(大橋委員長) 日程第 2 議案第 28 号 補正予算の要求について を議題とする。
事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 本件は、現在開会中である 6 月市議会にて、歳出の事業で、東日本大震災の被災者への母子保健事業における妊婦健診委託料を増額要求するものである。今回は、7、8、9 月分の妊婦健診の委託料を要求している。これまでは、4 月分は 4 月に専決、5、6 月分は 5 月に専決と、これまで随時、専決を行い、承認を得ている。今回の 3 か月分を 6 月市議会最終日に追加で提案することを予定している。この 3 か月分の要求額 15 万 1 千円の内訳だが、妊婦健診が 7 人 21 件、4 か月健診が 1 人 1 件で積算している。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。それでは、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議はないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。以上をも

って日程を終了する。

(大橋委員長) 次に協議報告事項に移る。報告事項として6月議会における教育委員会関係の質問事項について、事務局から説明を求める。

(大滝教育部長) このたびの本会議では4名の議員から質問があった。藤井盛光議員からは、教育について大きく2つの質問があった。1つ目の質問は、学級崩壊の解決方法である。藤井議員は、発達障害についての保護者の理解をはじめ、保護者と教育現場の意思疎通が充分ではないことが学級崩壊の要因ではないかと考えている。これについては、保護者と学校及び地域が今以上に意見交換できる仕組みづくりが必要ではないかという質問と、3歳児健康診査時に発達障害等の検出力向上及び通知は可能か否かという質問の、2つの細分化した質問があがった。これらの回答について、前者については、「熱中！感動！夢づくり教育」を生かした教育を推進しており、学校評議員を活用し、学校運営について幅広く意見を求めている。さらに保護者・学校の双方にとって意見交換が高まるように努めている。後者については、3歳児検診時点で一斉に判定して通知するのは難しい。しかし、子ども発達相談、こどもすこやか応援事業、就学相談等で発達や就学に向けた支援に取り組んでいる。2つ目の質問は、中学生・高校生世代の政治参加についてである。現在、20歳代の投票率は憂慮すべき状況にあり、中学生からの政治参加について教育のあり方を伺いたいとのことである。これについては、中学校の生徒総会等の場で積極的に民主主義の意義を伝えるべきではないかという質問と、高校教育への引継ぎを徹底すべきではないかという質問の、2つの細分化した質問があがった。これらの回答についてだが、前者については、中学校の生徒会役員選挙や総会等の場が、積極的に民主主義の仕組みや参政権について学習する有効な機会であると捉えており、学校側としては選挙や民主主義の意義について指導をしている。そして、授業で税務署職員による税金の説明を始め、外部の方々から社会の仕組みについて説明を受けさせることで、児童にそこから政治や社会の問題についての意見を持たせ、牽いては政治への関心を高められるように繋げている。後者については、小中学校での社会科の内容を踏まえ、公民の授業で学習させることで高校教育へ引き継いでいる。

(矢沢子育て支援部長) 高見美加議員からは少子化対策について大きく3つの質問があった。1つ目は、本市における少子化の現状と将来推計についての市の認識である。少子化は、ここ20年間程、急速に進んでおり、市も例外ではない。昨年、市で誕生した子どもは2,230人余り、死亡した方は2,980人であり、社会的な増減を含めると、市でも人口が減少傾向にある。これを踏まえ、市長からは、少子化対策は市の最重要課題の1つとして捉えて認識していると意見をいただいた。また、少子化対策は人口を増やすことや出生率を高めることを重視しがちであるが、数の増減だけではなく、子ども達の成長をきちんと支援していく姿勢が大事ではないかと認識している。2つ目は、本市における少子化対策とその成果についてである。これについては、4つの細分化した質問があがった。1つ目は、本市はどこに政策目標を置き、どのような施策をとってきたか。また、その成果をどう評価しているか。2つ目は、少子化が進む中での幼保一体化への取り組みや今後の公立保育園の方向性についてはどうか。3つ目は、定員を超える児童クラブの対応策と今後の児童クラブ運営の民間委託についてはどうか。4つ目は、不妊治療についてさらなる支援が必要ではないか、というものである。1つ目の回答については、まず、子育て支援という柱と次代を担う子どもの育成という柱の2つの柱をもって政策を進めている。その一例として、市民の声から生まれた「子育ての駅」を整備し、そこで世代を超えた交流を深めてもらうことで、子育てに対する不安や悩みを話し合っ
て解消していただき、お互いの成長を高めてもらう場の取り組みを進めている。また、お手伝い運動に代表されるように、当たり前のことを家庭の中でも実践できるような地道な取り組みを進めている。2つ目については、幼保一体化については国の子育て支援システムとして取り組まれているが、市にも、認定子ども園で幼稚園に保育園を整備し、幼稚園教育と保育を一体化した施設が2園作られている。作られたのは平成22年に1園、平成23年に1園である。この施設の方向性については、効率性だけではなく、子どもの視点に立ち、成長をサポートしていく方針で適正な配置、整備を進めている。3つ目については、まず、定員超過の児童クラブの対応について、黒条や富貴地区のような新興住宅地を抱えるところでは児童が増えるため、比例して放課後にケアを要する児童が増える傾向にある。対策として児童クラブの増設と、地域の方々の話を進めて支援をしていく。次に、児童クラブの運営

と民間委託については、企業に委託ではなく、地域の方々に結成された健全育成組織と話を進めていくことで、児童クラブを地域のコミュニティに委託するという考えで進めていきたい。4つ目について、不妊治療費はかなり高額であり、1回の治療で3万から5万円程かかる。県では不妊治療費の助成をしているが、利用者の所得に制限を設け、所得が730万円を超えると助成の対象外としている。その為、県の助成の対象外となった方から、市で何か助成がないかという要望が寄せられている。市としては、所得に関わらず医療保険が適用となるように、全国市長会等を通して声を挙げていきたい。3つ目の質問は、本市における今後の少子化施策の課題についてである。高見議員は、女性及び若者の就労状況は厳しく、若者には社会保障の負担も重く、いわゆる「世代間格差」が生じていることが少子化の要因であり、根本的な解決が必要ではないかと述べている。また、現在国レベルで今後の税と社会保障のあり方が論じられている中、地方自治体の裁量の範囲内で使用できる財源が国から配分された暁には、市では少子化対策にその配分を使用してほしいと意見をいただいた。これについて市長からも、若者の雇用や世代間の格差を認識する中で、市としても最大限、それを考慮し、少子化対策と子育て支援に対処していきたいと意見をいただいた。

(大滝教育部長) 藤井達徳議員からは、東日本大震災後の諸課題への対応について、学校での節電対策の取り組みについて3つの質問があった。1つ目は、グリーンカーテンのこれまでの取り組み状況と今後の進め方についてである。これについては、市では平成18年度に小学校3校で始めて、今年度で31校が実施をしている。この取り組みは今後も継続していく予定である。2つ目は、節電で生み出された予算の学校への還元についてである。これについては、兵庫県豊岡市での実例を挙げると、節電で生み出された予算の半分を、子ども達が遊ぶボール等の購入代に充てるよう予算付けをしている。市でも、子ども達に何らかの形で還元できるよう方法を模索している。3つ目は、今後の学校における具体的な節電対策と節電教育についてである。これについては、市のピークカット15%対策に従い、各学校でも自主的に節電計画を作成し、健康面、安全面に充分配慮しながら節電に取り組んでいる。また、節水、ごみの分別、省エネ、省資源について、児童生徒が学校で実施することで、家庭生活でも実践できるよう繋げていくことが重要であり、今後も引き続き指

導していきたい。

(矢沢子育て支援部長) 佐藤伸広議員からは市のピークカット15%対策について、土、日勤務の企業が出てきた場合の保育等の市の対応について質問があった。まず、ピークカットの動きが始まってきた時に、保育園を通じて保護者のニーズを事前に調査していた。その結果、土曜保育を希望していることや早朝等の延長保育を希望していることが分かった。土曜保育については以前から実施しているため、今後も対応可能である。日曜保育については希望者がいないため、現在は実施していないが、今後、希望があれば、「てくてく」やちびっこ広場、市内の保育園で3園が実施している休日保育を紹介しながら、今後のニーズを調査し、保護者が安心して働ける環境づくりに努めていきたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 次に、文教福祉委員会について、事務局の説明を求める。

(大滝教育部長) 文教福祉委員会では8名の委員から質問があった。

藤井盛光委員からは、学校評議員、学校運営協議会の取り組み状況と子どもの貧困について質問があった。まず、学校評議員の各学校の人数と学校運営評議会の開催数については、学校評議員は5人、学校運営評議会の開催数は2回から6回である。委員からは、学校評議員の人数をもっと増やして、保護者と地域、学校の相互で意見交換できるよう図れないかと意見があったが、現在の学校評議員制度に対する評価は高く、その評価をさらに高めていけるよう積極的に意見交換していきたい。次に、子どもの貧困について、現状の認識では、教育委員会での就学援助が必要な経済的に厳しい家庭が増えてきている。また、今後も教育委員会と福祉保健部で連携を取りながら援助を進めていきたい。

木島委員からは、学校への自然エネルギーによるエアコンの導入について質問があった。まず、夏場の教育環境の改善を図るには、エアコンの設置が必要ではないかと意見が出たが、各教室へは扇風機を設置し、対応している。特別教室や温度調整が難しい教室には、エアコンの設置で対応している。次に、地熱等の自然エネルギーによるエアコンの試験的導入について意見が出たが、現在他市で実施している学校があり、今後も研究を進めていきたい。

山田省吾委員からは、学校・子どもかがやき塾の事業内容と学校の適正規模について質問があった。まず、学校・子どもかがやき塾は、学校の特色を生かした授業を行うために、学校側から計画を提出してもらい、それに応じた予算を配分している。結果としては、学校側から高い評価を得ている。また予算は、学級数に応じた配分を行っている。次に、学校の適正規模についてだが、複式学級数は小学校では12学級、中学校は9学級から18学級で設置を進めている。複式学級のデメリットとして、多様な意見が出にくい、少人数では体育・音楽等の授業ができないのでは、といった意見が浮上しているが、児童にとって良い環境を整備するために、適正化の計画を今年度中に作成していく予定である。

佐藤委員からは、今夏のピークカットに対する学校での対応と小中学校の修学旅行について質問があった。まず、ピークカットについては、本会議でも説明したとおり、夏休みは自ら行動する絶好の機会と捉えている。目標及び取り組みは各学校に任せており、家庭でも自主的に節電を取り組むよう指導している。次に、修学旅行についてだが、行き先を福島から他の地域に変更した学校は24校中22校であり、行き先を佐渡に変更した学校が多かった。残り2校については旅行の時期を春から秋に変更し、現在、行き先を検討している。長岡と会津は深い繋がりがあるため、会津に行くべきではという趣旨の質問ではあったが、旅行計画時の4月はまだ余震が発生していたことと道路状況がひどいこと、安全確保の面から行き先を変更せざるを得なかった。

桑原委員からは、学校における食物アレルギー対策について質問があった。現在、食物アレルギーを持つ児童生徒数は668人いる。このうち、給食では使用しない食材がアレルギー原因である児童や自分で食材を除去できる児童を除き、360人には除去食や代替食の用意で対応している。

松井委員からは、武道必修化を前にした柔道の指導体制について質問があった。頭部を打撲しなくても重大事故につながる「加速損傷」については、担当教員が研修会で学習しており、注意すべきことと認識している。武道の授業は、日本の文化・伝統を理解させるための授業であるが、指導体制や事故防止体制においては安全面に十二分に注意しながら指導していきたい。

高野委員からは、学校給食の食材とプールの水の安全性について質問があった。

まず、県外での放射能による安全性がとりざたされているが、市の学校給食の食材では福島産の使用はなく、茨城産の使用はある。また、検査により放射能が検出されていないものを使用している。次に、プールの水の安全性について、福島県では学校のプールの水から放射能は検出されなかった。新潟県でも、県が県内の6高校で調査を実施し、市内では長岡高校が対象となったが放射能は検出されなかったもので、市も安全と判断している。

中村委員からは、保育園の耐震化の取り組み状況について質問があった。まず、昭和56年6月に設定された新耐震基準以前に建築した園は48園中15園である。平成20年に実施した「耐震化優先度調査」において、この15園に早急に対処が必要な優先度が高いものは無かった。また、来迎寺保育園については、老朽化が激しいが倒壊の危険性はない。これまで同様、傷んでいるところを修繕することで対応していく。

(大橋委員長) この6月議会は、新人議員を含めた全議員には今年度の最初の議会であり、質問が数多く出たのではないかと。また議会の雰囲気について聞きたい。

(大滝教育部長) 藤井盛光委員は教育問題に関心を持っている。今後も教育問題に尽力されるのではないかと。

(矢沢子育て支援部長) 委員会では、珍しく子育て関係の質問はほとんどなかった。みな、学校教育に非常に関心があるのではないかと。

(大橋委員長) 先ほどの節電計画の中で、小中学校全ての計画を見た上でそれぞれ節電に取り組んでほしい。しかし、大規模校と小規模校の節電計画に違いがあるのはどうしてか。

(若月教育総務課長) 冷房の設備等、各学校の設備が異なっているためである。学校の大小だけでは測れない。

(大橋委員長) 管理者としては、教職員に節電を周知するのは大変のようだが、よい機会ではないかと。

(若月教育総務課長) 具体的な数字を挙げて節電効果を高めるために、学校には電気メーターの見方を徹底させたり具体的な節電計画を作成させたりすることで、学校で自発的に節電に取り組んでもらっている。また、中には子どもたちが劇を作って節電を啓発している学校もある。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 次に、教育委員会関係工事等の入札状況について、事務局の説明を求める。

(山口教育施設課長補佐) 小国中学校屋内運動場耐震補強・大規模改造工事の入札状況について、契約金額は2億7,027万円、契約の相手方はダイエー・吉久・小室小国中学校屋内運動場耐震補強大規模改造特定共同企業体である。契約工期は平成23年7月4日から平成24年1月31日を予定している。工事を行う建物は鉄骨造り3階建てであり、工事内容は耐震補強工事及び大規模改造工事である。小国中学校の屋内運動場は、平成21年に実施した耐震診断により耐震性が低いことが判明したので、所定の耐震性を確保するために必要な補強工事を実施する。また、この屋内運動場は、昭和44年の建築から築後42年経過しているため、建物の老朽化が著しく、耐震補強工事と併せて建物の外壁及び内部大規模改造を実施する。主な工事内容については、鉄骨の補強、外壁の張り替え、サッシの取り替え、アリーナの壁の張り替えを実施する。

(武樋学務課長) 宮内中学校の改築工事による給食室の給食調理機器取得については、消毒保管機や冷蔵庫、洗浄機やオープン、その他ではガス回転釜や収納棚等、全部で36台購入するものである。契約金額は2,362万5千円、契約の相手方は新日工業株式会社である。工期は6月議会最終日の7月4日から11月30日を予定している。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 小国中学校は、屋内運動場の工事期間中はどこで運動をするのか。

(山口教育施設課長補佐) 代替場所としては、小国支所の裏に小国地域体育センターがあり、そこを使用してもらおう。

(大橋委員長) 小国中学校の大規模工事にて3階建てになるのはどうしてか。

(山口教育施設課長補佐) 1階がトイレや物置、自転車置き場となり、2階が体育館部分、3階がアリーナとなる。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 次に、スクールバス事故に係る和解及び損賠賠償について、事務局の説明を求める。

(武樋学務課長) 栃尾地域のスクールバスにおいて、平成23年1月21日午後に栃尾の東中野俣で軽自動車との接触事故が発生した。状況は、スクールバスが下り坂、相手方の軽自動車が上り坂に面しており、相手方は道路の脇に停車したが、雪と路面の凍結もあり、スクールバスがすれ違い様に軽自動車に接触してしまった。被害は車両のみで、双方の運転手と児童及び引率者に怪我はなかった。これについては相手方と和解が成立した。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 次に、平成23年度 学校・子どもかがやき塾 夢企画事業内容について、事務局の説明を求める。

(小野田学校教育課長) 平成23年度 学校・子どもかがやき塾 夢企画事業については、小学校16校、中学校6校を夢企画の実施校として予算の追加配当をした。もともと、学校独自の活動を行うために学校裁量予算として1校あたり40万円を配当しているが、これとは別により特色のある活動をしたいと応募があった学校に対して、教育委員会で選定することで予算の追加配当を行っている。この事業で、児童が自分の地域や学校に誇りと自信を持てるようになったことや地域と学校の結びつきが強くなり、地域からの支援が多くなったことがあったと学校側から高い評価を得ている。また、このたびの文教福祉委員会からも高評価を得られた。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) この事業では、各学校が成果を発表する場があるので、教育委員の方々においては是非、学校に足を運んで見ていただきたい。

(大橋委員長) この事業に応募する学校を選定する基準はあるのか。

(小野田学校教育課長) まず、同一校が同一企画を行うのは2回まで可能としている。また、3年連続での応募は不可であり、しばらく経てから、別企画での応募があれば選定の対象としている。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 次に、平成 23 年度 地域・子ども元気塾助成団体について、事務局の説明を求める。

(小野田学校教育課長) 今年度の地域・子ども元気塾助成対象団体については、お手元の資料のとおり 10 団体に助成が決定した。応募はこの 10 団体のみだったが、5 月 29 日に各団体のプレゼンテーションを行い、審査員の羽賀委員とともに活動内容を審査した上でこの 10 団体に決定した。教育委員会では助成対象となる分野は、自然・科学・社会・文化・芸術であるが、スポーツ振興課の方でも、同じようにスポーツに関する団体に対してプレゼンテーションの場を設け、内容を審査した上で助成を行っている。この事業をとおして、地域の方々が子どものために特色ある活動を考えてくれていることが分かるので、地域の方々に感謝したい。

(大橋委員長) この事業では、学校よりも地域が主体となっているのか。

(小野田学校教育課長) 市民の団体が主体となっている。

(加藤教育長) これからの夢づくり教育は、学校だけではなく市民の力、地域の力が必要である。子どもたちのために活動しているこれらの団体を支援していくことがこの事業の目的である。

(大橋委員長) 市民団体はかなりの数、存在しているのか。

(羽賀委員) この 10 団体だけである。毎年、助成団体選定の基準をクリアしている団体もあるが、現在の基準や事業内容に満足せずに、もう少しランクを上げてレベルアップを図ってほしい。

(中村委員) 各団体への補助金額が違うのは、団体からの希望により決定したもののなか。

(小野田学校教育課長) 助成の上限を 20 万円で定めており、その範囲内で希望金額を申請してもらっている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 次に、平成 22 年度麻しん予防接種の実施結果について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 麻しん予防接種については、国が定めた麻しん排除計画に基づき、平成 20 年度から 24 年度までの 5 年間で、中学 1 年生と高校 3 年生を対象

に毎年実施するもので、今年度は計画4年目である。また、麻しんは感染力が非常に高く、感染を事前に防ぐ目的から、予防接種には接種率95%の目標が設定されている。麻しん排除計画は、平成19年3月頃に麻しんが急激に流行り、社会問題となったことが発端で、平成19年8月に麻しん排除計画が作成され、平成20年度に実施となった。次に、平成22年度の予防接種目標達成については、第1期から第3期にかけて全て95%以上達成している。第4期の高校3年生の達成率については93.1%で、目標には及ばなかった。しかし、新潟県全体の達成率90.7%から見れば、この93.1%の達成率は高い方であると考えている。また、平成21年度と比較すると、第4期の高校3年生の接種率では91.5%だったので、平成22年度の方が若干接種率が高まっている。今後2年度も引き続き学校関係者と取り組みを強化して目標達成に努めていきたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 次に、青少年健全育成のつどい「尾木直樹さん 講演会」の開催について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 7月8日に青少年育成健全育成のつどいとして、長岡リリックホールのコンサートホールに、教育評論家の尾木直樹さんを講師に迎えて講演会を実施する。これは、毎年、長岡市教育委員会と長岡市地区保護司会が主催している。開催時期は毎年7月で、社会を明るくする運動に合わせている。現在の整理券配布状況は、全て配布済みで満席状態である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 次に、附属機関会議報告等について、事務局の説明を求める。

(鈴木中央公民館長) 本件は、5月27日に開催した第1回平成23年度社会教育委員会公民館運営審議会の報告である。この審議会では、3月の教育委員会定例会で承認された平成23年度長岡市社会教育の基本方針を報告した。議題は2つあり、1つ目の議題は平成23年度各課の社会教育関連主要事業についてであり、質疑応答の結果、主な意見が6つ出た。1つ目の意見は、市民農園の実態についてである。市民農園はこれまで柿町に農園があったが、墓地公園となったために高町団地の脇

へ移転し、山通ふれあい農園として来年5月3日から233区画を設置した。また、今後の農園の開園予定はないことを回答した。2つ目の意見は、地域会館整備事業の具体的内容についてである。これには施設の修繕費用の要望が出たが、予算は各施設には配分されておらず、全体の施設数で予算を確保しているため、施設の修繕の必要があれば、全体の予算から修繕費を賄うと回答した。3つ目の意見は、コミュニティセンターと公民館の役割についてである。これには、双方の施設が社会教育に関わる役割分担が整備されていないのではないかと意見が出たが、今後検討していくことを回答した。4つ目の意見は、ポニースクールを実施する学校の場所選定についてである。これには、限られた選定枠の中で順番に配慮しながら回していくことを回答した。5つ目の意見は、地域の古文書の資料の整理作業についてである。現在、地域の古文書の整理作業を中央図書館に集約して整理作業を行っているが、作業が終了次第、資料を各地域に戻す予定である。6つ目の意見は、科学博物館が行う「熱中！感動！夢づくり教育推進事業」の学校との連携についてである。これは、基本的には科学博物館で企画した後、各学校へ募集案内を出しているが、今後は、学校からの意見も取り入れられるよう検討していくことを回答した。2つ目の議題は、平成23年度の会議・研修会の日程についてであり、この審議会での日程の確認のみだったので説明は割愛したい。

(小倉中央図書館長) 本件は、6月10日に開催した栃尾美術館協議会報告である。この協議会では、平成22年度事業報告及び平成23年度事業計画と協議事項について協議した。まず、事業報告については3つの意見が出た。1つ目の意見は、他の美術館との企画展の重複及び連携である。栃尾美術館の企画展が他の美術館の企画内容と重なっていることが多々あるが、この関連性を集客力確保のために利用できないかという意見があった。例えば、栃尾美術館では今年の10月に岩合光昭氏の「どうぶつ家族」展を開催予定であるが、昨年度に岩合氏が新潟の万代島美術館で開催した「ねこ展」ではかなりの入館者があったので、この岩合氏の作品に関心を持った方々の来館に期待したいという声が多かった。2つ目の意見は、「ながおかのこども作品展」の出品対象者の拡大についてである。平成23年度から出品対象者が市内全域の保育園・幼稚園児に拡大されたので、園児の家族が当館に大勢来館されることを期待したいという意見があった。3つ目の意見は、集客力確保につい

てである。昨今は、一つの施設だけでは来館者数を伸ばすのは難しいので、美術館の枠を超えて、市内の施設同士、地域同士で連携していきたいという意見があった。次に協議事項については、今後の美術館の在り方について5つの意見が出た。1つ目の意見は、物販についてである。物販は栃尾らしいもの、地域性を生かしたものを勧めて、観光を生かして誘客に結び付けてはどうかという意見が出た。2つ目の意見は、友の会についてである。友の会を作れば、企画展の幅も広がるのではと意見も出たが、メリット、デメリット等を検討する必要があるので、今は友の会を作ることを保留としたいと回答した。3つ目の意見は、長岡市における美術館の存在意義である。美術館は、市民には栃尾地域の美術館ではなく長岡市の美術館であることの意識がまだ薄いようなので、長岡市の美術館であることをもっと市民にアピールしてはどうかという意見が出た。4つ目の意見は、来館者の満足度の向上である。市内の施設全体をスタンプラリー等で周遊できるように連携してはどうかという意見があった。これについては、予算化されたPR事業の中で市内の施設と積極的に連携できるよう努めていきたいと回答した。5つ目の意見は、イベントの開催時間についてである。土日中心のイベントでも、月2回程、平日の夜に開催する等の時間の工夫できないかと意見があった。これについては、仕事帰りの方も来館できるよう検討していきたいと回答した。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) ポニースクールについて詳しく知りたい。

(佐藤子ども家庭課長) ポニースクールは毎年9月から10月の間に2週間実施する。1日1校で行い、市内10校程が対象となっている。事業はハーモニーセンターに委託しており、ポニーが学校のグラウンド等に出向き、児童と触れ合うものになる。ポニースクールには毎年10校以上の応募があり、今まで実施されていない学校や前回の実施から数年空いている学校を優先して選定している。

(加藤教育長) 養護学校はアニマルセラピーの目的で毎年実施していると聞いているがどうか。

(佐藤子ども家庭課長) 毎年実施している。

(加藤教育長) この事業は高評価を得ていると聞いているが、順番がなかなか回ってこないのがデメリットではないか。

(佐藤子ども家庭課長) そうだが、なるべく多くの学校に行きわたらせたいので致しかたない。

(大橋委員長) 「熱中！感動！夢づくり教育推進事業」での科学博物館と学校の連携についてももう少し掘り下げて教えてほしい。

(山屋科学博物館長) 基本的には博物館に職員や先生が来館した際に、たくさんの方がこの事業に参加できるようにプログラムを提供している。例えば、阪之上小の悠久山活動で昆虫観察会を行ったり、脇野町小学校からは科学博物館長の足跡について受講希望があったり、日程が重複しない限り、学校からの要請があれば喜んで出向いている。この事業は、学校側が主体的に計画されたものに科学博物館側が知識・技術の提供をしているので、学校との連携は必至である。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 次に、栃尾美術館「越路の豪農 長谷川家所蔵資料展」について、事務局の説明を求める。

(小倉中央図書館長) お手元のチラシのとおり、博物館が管理している長谷川家所蔵の資料を栃尾美術館で一度預かり、資料展として6月25日から8月3日まで開催している。展示内容はチラシの裏面のとおり、円山応挙の絵や山本五十六の書、勝海舟の書等、立派なものが多いので数多くの方から来館いただきたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(佐藤子ども家庭課長) 配布物の説明をさせていただきたい。1つ目は、学生向けの悩み電話、メール相談窓口のカードである。これは青少年育成センターで毎年作成しており、配布対象者は市内の高校生全員、中学生全員、小学3年生以上の児童である。小、中学校には本日の学校文書連絡便で配布し、高校には7月1日に青少年育成センターの職員が各校を訪問してポスターとカードを配布して啓発する予定である。この活動は毎年夏休み前に実施している。2つ目は、おやかスマイルガイドで、これは平成20年3月初版の改訂版である。大幅な改訂は、「てくてく」と川口支所の追加である。掲載内容は、子育てのQ&Aと著名人のインタビューが主であるが、市の助産師、保健師、保育士、栄養士、言語聴覚士による実例に基づいたQ&Aも掲載している。このガイドブックは、チャプター訪問等の家庭訪問時に

利用している。3つ目は、平成23年度版の子育てガイドであり、これは毎年発行している。掲載内容は、市内の子育て相談窓口の紹介と市の事業紹介、保育園や市の連絡先一覧である。市の転入者含め、市政だよりに追加する等、市民に幅広く配布をしている。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 悩み相談カードを高校生にも配布しているのは良い試みだと思う。高校では市外から通学している生徒もおり、市外の生徒からも市の取り組みに目を向けてもらい、悩みを解決してもらいたい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 他に報告事項はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) これをもって、協議報告事項を終了する。

(大橋委員長) さて、本日は、この定例会の前に「長岡聾学校」「黒条保育園」「富曾亀第2児童クラブ」並びに「川崎小学校」を訪問した。教育委員の皆さんから意見、感想をいただきたい。

(中村委員) まず、最初に訪問した聾学校では幼稚部から高等部まであり、校舎が広い印象を受けた。また、教師のみなさんは手話が上手であったが、赴任当時から手話ができている人ばかりではなく、みな手話を一から独自に学び授業に生かしていることに驚いた。幼稚部を視察していた時に、子ども達には早い頃から手話を学ばせていると説明を受け、手話を使いながら一生懸命コミュニケーションを図ろうとする子ども達の姿が強く印象に残った。次に訪問した黒条保育園は、規模・人数ともに市内一の大きさではあるが、子ども達がすごく落ち着いている印象を受けた。給食は年中クラスでいただいたが、食べ散らかしたり待ちきれなくて騒いだりする子どもはいなく、先生の教育が行き届いていることに感心した。富曾亀第2児童クラブでは、児童が指導員の方の話を良く聞き、ルールを守り、一生懸命勉強していることから児童と指導員の良好な関係が伺えた。最後に川崎小学校の授業参観では、男性の先生がピアノを弾いていたり裁縫を教えていたり、積極的に子育てに参加

している様子が見てとれて大変有意義な時間であった。

(内藤委員) 聾学校では人数は多くないが、養護施設に比べると施設環境が良く、生徒が伸び伸びしている様子が見てとれた。先生も赴任されてから手話を覚える等、積極的にあらゆる手段でコミュニケーションを図ろうとしている姿勢が良かった。寄宿舍は、人数が少なく、空き部屋がもったいない印象を受けたが、寄宿舍の清掃やお手伝いを子ども達が率先して行う等、共同生活で細かいところまで配慮しているのには感心した。黒条保育園では、祖父母と同居している子どもが多く、核家族世帯の子どもは少ないように見えた。家庭生活でのしつけが良いのか、それが保育園内でも生かされているようだった。先生も若い方が多いが、明るく良い指導をされていた。富曽亀第2児童クラブでは、職員が児童をわが子のように支えてくれていたり周囲に県内でも珍しい全天候型運動場や緑地公園が設置されていたり、児童にとって良い環境が整備されており、貴重な体験をさせていただいた。川崎小学校は、一クラスの人数は多いが開放的な環境でそれを感じさせず、児童達も集中して授業に取り組んでいるのは先生の細やかな心遣いがあるからだと感じた。

(羽賀委員) 市内の養護学校は厳しいシフトの状況なのに、訪問した聾学校は生徒数に比べて職員数の多さが目立ち、寮も閑散としていて偏りを感じた。社会情勢や格差を配慮する必要がある。黒条保育園では、あれだけの子ども数に対して若い先生が多かったが、ベテランの先生の下、哲学的な指導を学んでいるのが伺えた。富曽亀第2児童クラブでは、屋根付き公園の概念が、市が全国初であると聞き、子ども中心で子どもを見ている長岡の取り組みに感心した。川崎小学校では、先生達の細やかな指導を見た反面、仕事量で潰れてしまわないようにと思った。今回はいろいろな所を見せていただいて感謝している。

(大橋委員長) 初めて定例会で訪問した聾学校で驚いたのは、教職員の芸術レベルが高いことだった。特に音楽はスペシャリストの方が教えていたので、中等学習とは思えないほど指導レベルが高かった。また、この指導レベルの高さを公立学校に分散できないかと思った。黒条保育園では、園長先生の指導の下、活気ある集団生活を大切にしており、職員同士の年齢差も感じさせないほどの好印象があった。富曽亀第2児童クラブでは、公園にあれほどの施設を作れるなら、青葉台にも作ってほしいと感じるほど素晴らしい施設だった。また、職員の活躍も素晴らしい。川崎

小学校では、落ち着きもあるが、教育に熱心に取り組んでいる様子が好印象であった。今後も一生懸命取り組んでほしい。

(加藤教育長) 聾学校を訪問して、耳から情報が入らないことの大変さを知った。先生が音は伝わらなくとも他の手段で懸命に教えており、保護者にも家庭生活で徹底させているのが印象的だった。黒条保育園では、年中クラスで給食をともに食べたが、しっかり指導されている中でユーモアがある子が多かった。富曽亀第2児童クラブについては、地域の手厚い協力を感謝したい。川崎小学校では、少人数学級の大変さを感じたが、総合学習の時間では少人数ならではの質の高い指導をすることができるのでメリットも理解できた。

総合的に考えると、運営側のあまりにも丁寧過ぎる対応は、子どもだけでなく保護者にもあまりよくないのではないかと思う。ある程度の線引きが必要で、保護者にも判断してもらい家庭生活の中で教育してほしいところがある。何でも行政が手を出してしまうのは、子どもの自立を妨げてしまうと考えている。

(大橋委員長) これで意見交換を終了する。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員